

令和6年度総会、講演会及び意見交換会

1. はじめに

去る4月26日(金)に行われました「第33回道央技術士委員会総会、講演会及び意見交換会」について報告します。

開催日：令和6年4月26日(金)

場 所：蓬峯殿(室蘭)、WEB配信

時 間：17:00～20:00

昨年に引き続き対面式の総会となり、WEB配信による参加者を含め総勢17名で行われました。例年少し寒さが残る状況での開催でしたが、今年は、蓬峯殿の桜が満開になるなど、春の訪れを告げる陽気に恵まれた中で行われました。

2. 総会

(1) 議案

昨年度の活動報告として、施設見学会(民族共生象徴空間ウポポイ、胆振東部地震の復興状況視察)の報告がありました。また、今年度の活動予定として、例年実施している施設見学会(2回)、講演会及び技術研修会に加え、防災まち歩きを実施する予定がある旨の報告がありました。

(2) 北海道本部事務局次長の挨拶

北海道本部事務局次長 小澤達也氏より「技術士を巡る最近の動向」を話題としたご挨拶がありました。話題は試験結果、統括本部からの話題及び北海道本部の主な動向についてお話がありました。

また、今年度の主要なイベントとして第50回技術士全国大会が北海道札幌市で開催されることから、日時、会場、プログラムの予定についての説明がありました。



小澤氏のご挨拶

3. 講演会：地域防災活動についての検討

当会では防災に関する活動に取り組むことを計画しており、昨年はその一環として、胆振東部地震から5年が経過した厚真町の復興状況を視察しました。今年度はより地域防災を意識した「防災まち歩き」「図上演習(DIG)」などを計画しております。

講演会では田中代表幹事の概要説明に次いで、会員の「防災」「災害対応」に関する見識を共有する、フリーディスカッションを開催しました。



田中代表幹事(ファシリテーター)

フリーディスカッションにより寄せられた意見

(1) 胆振東部地震時の状況

- ・厚真町在住で直接被災したため、家屋など大きな損壊を受けた。
- ・当日は徹夜で北海道や市町村からの電話対応に奔走した。その後は現地調査から災害査定まで震災対応は年末まで続いた。
- ・災害対応時は現地で食料が調達できず、1日お菓子のみで対応したこともあった。
- ・夜明けから厚真町の橋梁点検を実施した。
- ・ガソリンが無くなり、現場対応が難しくなった。
- ・工場では自家発電があったが、北電からの供給電力とミックスするため、発電量が落ち、一部の製品は製造が困難になった。ただしブラックアウト時でも工場内ではスマホの充電等が可能であった。

(2) 災害に備えて何ができるか

- ・自宅のハザードマップや避難場所知っている会員が多数で高い防災意識が垣間見えた。
- ・苫小牧高専では津波時には、3Fに上がるか、ゴルフ場に避難するよう指導している。
- ・他団体(ゼネコンなど)とのコラボもあり。
- ・洪水に対してはDIGを実施したことがある。難しく考えずに、洪水時にどこに逃げたらいいかなどQA方式でやってみるのも効果的であった。

その他、様々な有益な意見が寄せられ、あっという間に時間が経過しました。



フリーディスカッションの様子

4. 意見交換会

テーマは引き続き「地域防災」について、意見交換会を実施しました。意見公開会では、近年の防災意

識の高まりや技術士が地域貢献できるフィールドに着目し、地域と協働した防災まち歩きを実施するという意見でまとまりました。

懇親会では、田中代表幹事の乾杯の音頭で開会され、総会、講演会の内容についての話題や近況報告など、技術部門や世代を問わず技術情報の交換が活発に行われました。

最後に盛山が締めめの挨拶をさせて頂き盛会の内に閉会致しました。



意見交換会の様子

5. おわりに

2018年9月6日、北海道を震え立たせた胆振東部地震とそれに起因したブラックアウト。あれから5年以上の歳月が経過しましたが、復興への歩みは今も続いています。

胆振東部地震は、私たちに「地震への備え」として多くの教訓を刻み込みました。避難経路の確認、防災訓練への参加など、日頃からできる対策を行い防災意識を高めることはとても重要なことです。

それらに加え、技術士としての専門知識を基に、地域住民のニーズを理解し、共生を意識した防災計画の策定や、避難誘導、復旧支援など、様々な地域貢献活動を行っていく必要性も感じました。

さて、当委員会では、今年度も前述した各イベント開催を予定しており、より技術の研鑽に励むとともに、技術を以て持続的に地域への貢献を図っていきたいと考えております。